

4. 学校経営の方針

(1) 教育理念

◆ **いのちの教育を基調とした、知徳体の調和のとれた豊かな人間性の育成に努める。**

一人一人がかけないのない「いのちのランナー」であることを自覚させ、その上に立って一人一人の夢を実現するための「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」の育成を目指す。

一人一人の命を一番に考え、常に危機管理意識をもち、未然防止に努める。

◆ **教師の力量を高め、根岸の特色を生かした教育を展開する。**

教育は人づくりである。子どもをよく育てるには、何よりも教師の指導力を高めなければならない。教師は医師の仕事と似ている。確かな診断→子どもの個性や特性を見抜く確かな目。確かな治療や加護→意欲や興味関心を引き出し、基礎基本を確実に定着させる幅広く確かな技術。この目と技術をもつことによって、子どもからも親からも信頼される教師となる。

「なせば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」(上杉鷹山)の真摯な態度で自己研鑽に励み、「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」(山本五十六)を指導の基本姿勢として、子どもと協働・率先垂範する教師を目指す。

縁あって、根岸という地に勤務することになったわけだが、この地ならではの特色ある人的・物的・文化的・地理的な環境を指導に生かし、最大限の教育効果を上げるよう努力する。

◆ **家庭や地域と一体となって教育効果を上げるために、開かれた学校づくりに努める。**

教育は、学校・家庭・地域が一体となって機能したときに最大の効果をあげる。学校は、地域のコミュニティセンターとして教育情報の発信・交流と安全と安心の確保という役割も担っており、また、地域に欠かせない地域教育力の活用の中にもあり、地域の中の学校という側面をもつ。

そのため、教育活動の公開や新聞発行等の学校公開に努め、教育ボランティアや地域諸団体との連携を推進しながら、「供育・共働」に心がけることにより、「いつでも、どこでも、だれからでも学ぶ」という生涯学習社会に対応する資質を育む。

(2) 教育目標及び努力目標

- | | |
|-------|---------------------------------------------|
| ◆教育目標 | かしこく やさしく たくましく |
| ◆努力目標 | ☆めあてをもって学ぶ子
☆相手のことを思いやる子
☆じょうぶな体をつくる子 |

(3) 学校目標

「言語活動の充実・言語環境の整備を通して、主体的に学習に取り組む子を育成する」

〔重点施策〕

☆国語科を中心に言語活動の充実に努め、確かな学力の定着を図る。(教職員の資質の向上)

☆返事・挨拶・言葉づかい等の言語環境を整備し、好ましい人間関係の向上に努める。(学級経営)

☆音読や読書等が進んでできるように、家庭学習の習慣化に努める。(家庭との連携)